

小学生を対象とした利用促進策（案）について

1. 小学校における環境・地域学習プログラムの有効性

三次市では備北交通、中国バスなど多くのバス路線が運行しています。また市街地では平成22年10月より、市街地循環バス「くるるん」が運行を開始しました。利用者や地域の方々から「便利になった」「安心して生活できる」といった声をいただいています。

今後、公共交通を継続して運行していくためには、さらなる利用促進の実施、そしてなによりも「地域が公共交通を守り、育てる」という意識（たとえば、普段はバスに乗らない方が月に一回だけでも利用するようになる、など）を住民が持つことが大事だと考えています。

将来の公共交通利用者である小学生を対象に、環境や地域を学習してもらうプログラムを実施し、公共交通に慣れ親しんでもらうことで、「公共交通を利用しよう」という意識を育むことは、短期的な効果はもちろん、長期的にも有効な利用促進策となり得ます。また、地域における公共交通の重要性や環境面での貢献度を理解してもらうことは、より良い地域づくりの一助になるものと考えています。

2. 学習を通して児童に伝えたいこと

公共交通（特に路線バス、くるるん）を通して、高齢者など交通弱者（※）の立場から公共交通の重要性を認識してもらうこと、同時に地域を愛する心を育成すること

※交通弱者：高齢者や運転免許を持っていない方など、移動を制約される人のこと

他人と時間・空間を共有するバスへの乗車を通して、マナーや社会（他人とのつき合い方など）について学ぶこと

環境問題に関心を持ち、また地域や地球に貢献できる喜びを感じてもらうことで、自ら進んで環境に優しい行動ができるという態度を育成すること



義務教育の場で、自分の行動に着眼して公共的な問題を考えることで、「豊かな地域づくり」、「豊かな未来づくり」へ自発的な行動を取れるような人間を育てる

3. 学習プログラムの事例

様々な地域で様々な学習プログラムが実施されています。次ページではその一部を紹介します。

なお、可能であれば学習した内容や気付いた点などを児童自ら「保護者」や「地域」へ発表する機会を設けたいと考えています。

■保護者や地域への発表

- 発表を前提とした課題整理やストーリー・セリフの検討は、子ども達のプレゼン能力を向上させます。また、その様子をメディアに取りあげてもらい、作成した壁新聞などを校外施設（CCプラザなど）やくるるんの車内に掲示してもらい等により、子ども達のモチベーションを高めることも期待できるでしょう。
- さらに、学習した内容を実際に家庭で経験することにより、「気づき」→「体験・実践」することで学習内容をより深く理解することができます。

3.1. プログラム事例の一覧

次ページにプログラム事例を紹介します。これらのプログラムを単独で、もしくは組み合わせて実施するなど、学校の状況に応じて授業カリキュラムを先生方と一緒に検討したいと考えています。

分類	プログラム名	目的	内容	実施場所	時限数
教室で 授業	事前学習授業	環境・公共交通などに関する基礎的な情報を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化とクルマ、地域の公共交通について学習 普段利用している交通手段について確認 	教室	1～2時限
	市職員による 出前授業	三次市のまち、公共交通について詳しく学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 市職員がくるるんや地域の現状などについて説明 児童の質問にも回答 	教室	1時限
アン ケート	公共交通・環境 アンケート	おうちの人と一緒に公共交通や環境について考えてもらう	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通に対する認識や地球温暖化に関する問題意識を把握するために、保護者と一緒に回答してもらう 	自宅	—
バス乗車 体験	バス乗り方教室	乗り方を学ぶ、身近な乗り物であることを感じてもらう	<ul style="list-style-type: none"> バスの乗車方法の学習、乗車体験の実施、安全教室を実施する。 ※中国運輸局が多くの地域で開催。 	校内 (グラウンド)	2～3時限
	乗客インタビュー	児童自らが自発的に疑問を持ち、乗客インタビューを実施、その疑問に対する答えを得る	<ul style="list-style-type: none"> バスに関する疑問点や乗客に聞きたいことを乗車前に整理し、実際に運行しているバスに乗車し、乗客・運転手にインタビューする。 	郊外 (バス車内・ バス停)	2～3時限
高齢者 疑似体験	高齢者疑似体験・バ リアフリー教室	疑似体験を通して、高齢者の目線でものごとを考えてもらう	<ul style="list-style-type: none"> 代表の児童に高齢者の体験キットを付けて頂き、バスの乗り降りを体験。また同じく介助者も体験する。 ※バス乗車体験とセットで実施すると効果的 	校内 (グラウンド)	2～3時限
PR策 検討	「くるるん」利用促 進・PR策	「くるるん」「路線バス」の利用促進やPR策を考える	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学んだことから、利用促進策やPR策を考え、壁新聞等にまとめ、発表する。 整理した結果は、広報誌やメディアなどへ投函する。 	教室・その他	利用促進・P R策検討： 2～3時限
ゲーム	交通すごろく	交通渋滞がなぜ発生するのかについて考える	<ul style="list-style-type: none"> 「交通すごろく」を用いた学習体験を行い、自分本位の交通行動をとると、渋滞が発生するという「社会的ジレンマ」について学習する 	校内 (教室・ 体育館)	2時限

3.2. プログラム例

ここでは、プログラム例をお示しします。

(1) プログラム例

【目的】

- 公共交通とバリアフリーをテーマにした体験教室を通じて、将来の自動車ユーザーである小学生に公共交通の役割・必要性を考えてもらう。
- 乗り方やマナー、高齢者に対する心配りなどについて、児童が考え、学ぶ機会をつくる。
- アンケートの実施を通じて、保護者と一緒に考えてもらう機会を提供する。

公共交通の役割について

親しみやすい手描きポスターを用いて、公共交通の役割を学習



乗降方法・正しい待ち方の説明 体験乗車

安全面・マナーについて説明
校内（グラウンド）でバスを走行させて、乗り降りを体験。



安全教室（バスの死角の確認）

先生が運転席に座り、児童がどの位置だったら運転席から見えないかを実際に体験。



福祉体験（高齢者疑似体験・車椅子体験）

代表の児童に高齢者の体験キットを付けて頂き、バスの乗り降りを体験。また同じく介助者も体験。
車いすでバスに乗る状況を観察。

アンケート調査の実施

今回の授業で分かったこと、またもっと知りたい内容などを把握。

「バスの乗り方・バリアフリー教室」アンケート

お名前(フリガナ) _____ 学年 _____

性別 男 女

バスに乗る回数 乗らない 乗る回数が多い 乗る回数少ない

バスに乗る理由 学校に行くため 遊びに行くため その他 _____

バスに乗る時、一番困ると思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番嬉しいと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番怖いと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番安心と思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番困ると思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番嬉しいと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番怖いと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番安心と思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

アンケート結果、保護者のための活用シート

お名前(フリガナ) _____ 学年 _____

性別 男 女

バスに乗る回数 乗らない 乗る回数が多い 乗る回数少ない

バスに乗る理由 学校に行くため 遊びに行くため その他 _____

バスに乗る時、一番困ると思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番嬉しいと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番怖いと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番安心と思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番困ると思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番嬉しいと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番怖いと思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

バスに乗る時、一番安心と思うことは？ 乗降 乗車時間 その他 _____

(2) その他

プログラム例で示した内容に加え、以下のようなものを組み合わせることも考えられます。

市職員による出前授業：三次市の公共交通について詳しく学ぶ

【目的】

- 三次市職員が「くるるん」の誕生した経緯やその役割、まちづくりへの取り組みについて説明し、児童が住む地域でどのようなことが検討・実施されているかについて学ぶ。



クルマと電車とのCO₂排出量を比較



CO₂排出量をグラフにして比較

乗客へのインタビュー：バスを身近に感じる、どんな人が利用しているのか実体験する

【目的】

- 乗客や乗務員にインタビューを実施し、実際にどんな人が「バス」を利用しているのか認識を得る。
- 児童自らが自発的に疑問を持ち、その疑問に対する答えを得る。



バスの利用促進・PR策について考える

【目的】

- 担任の先生や市職員のお話、または体験乗車などを通して気付いたことを整理し、どんなバスになれば良いか、また利用する人が増えるかを考え、グループ毎に整理する。
- 可能であれば、PR策を保護者や地域の方々に「発表」する機会を設ける。



交通すごろく：交通渋滞がなぜ発生するのかについて考える

【目的】

- 「交通すごろく」を通じて、社会的ジレンマの概念や、鉄道、バス、クルマの利便性や環境負荷への影響を学ぶとともに、自らの行動が地球環境に与える影響について考える機会を提供する。

「交通すごろく」は、ゲーム形式で「社会的ジレンマ」の概念や「公共性」について理解することをねらいとした教材です。

参加者（児童）は、“振り出し”から“あがり”までを、鉄道（バス）またはクルマで移動することを選択しつつ進み、その結果として環境に優しい乗り物は何か、他の人や地域にやさしい交通は何か、などの理解を深めることができます。



